



登米地域の稲作通信 第7号

令和7年7月18日発行

宮城県米づくり推進登米地方本部

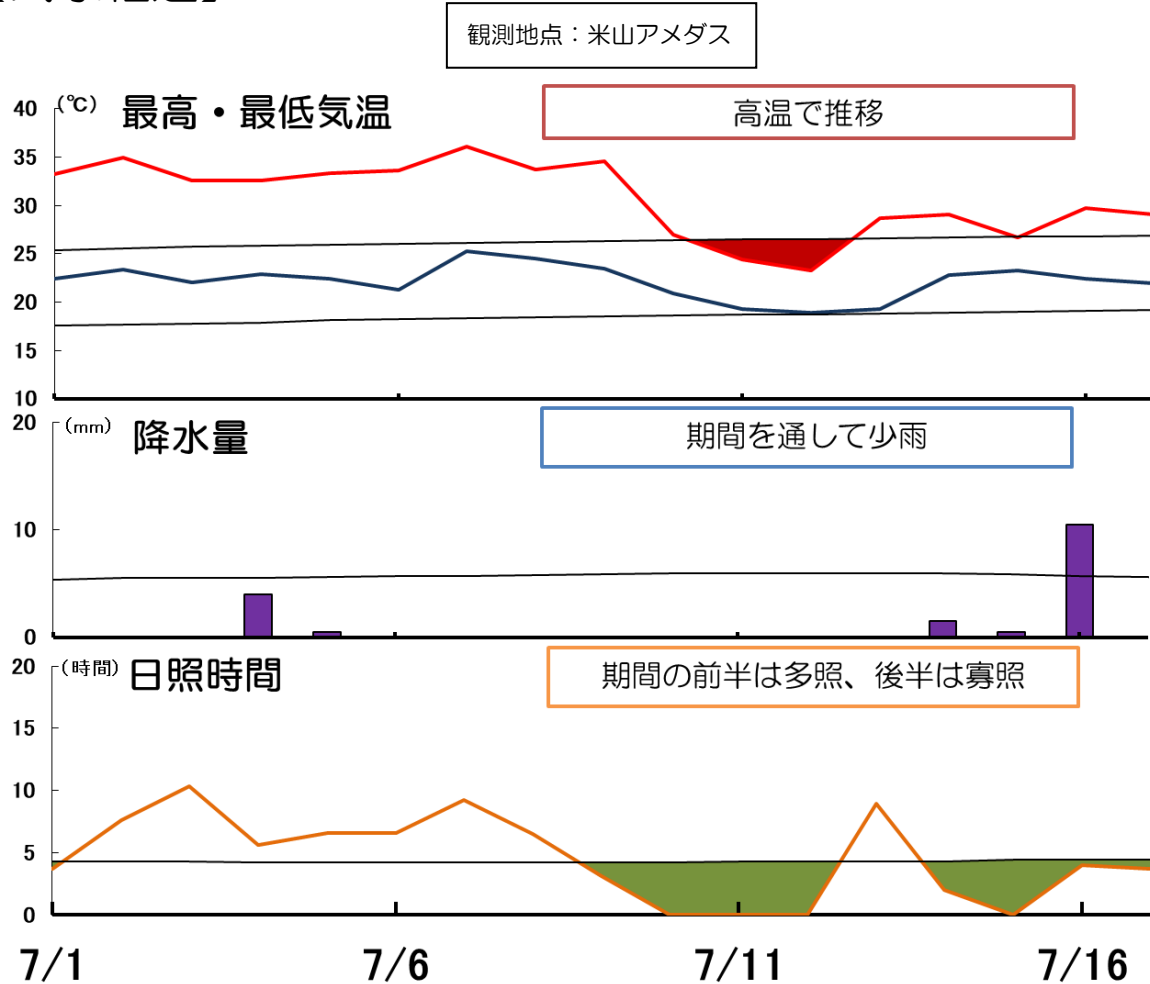
宮城県登米農業改良普及センター

Tel: 0220-22-6127



<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

【気象経過】



7月中旬(7/11～7/17)の最高気温は、11、12日は平年を下回りましたが、以降は平年を上回り推移しました。降水量は14日に10.5mmの降雨があったものの、上旬に引き続き少雨となり、平年比17%となりました。日照時間は曇天により日照時間が0時間の日もあったため、平年比107%となりました。

東北南部の梅雨明けは7月18日頃となり、平年より6日早くなりました。

【東北地方の向こう1か月の天気予報】

令和7年7月17日 仙台管区气象台 発表

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。平均気温は高い確率が80%、降水量は平年並または少ない確率ともに40%です。

【移植栽培】

葉色が平年より低下しています！！

1 生育状況

【水稻生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度 (株/㎡)		移植日	7月10日				7月18日			
							草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GMI)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GMI)	幼穂長 (mm)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	16.0	前年比・差 +2日 平年比・差 +6日	5月21日	68.5 109% 108%	524.8 103% 104%	39.3 -4.1 -2.8	0.7 -0.1 -0.1	73.3 95% 99%	536.0 108% 111%	36.8 -3.6 -1.7	4.3 -1.3 -17.1
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	15.9	前年比・差 +5日 平年比・差 +5日	5月21日	65.8 101% 106%	408.6 78% 81%	38.5 -3.1 -2.3	0.9 -2.0 -0.6	70.1 88% 95%	397.5 84% 84%	34.5 -3.0 -2.6	13.3 -3.4 -21.6
3	ササニシキ	Cタイプ (復活ササニシキ)	豊里町	15.4	前年比・差 +8日 平年比・差 +9日	5月12日	61.8 104% 104%	355.7 79% 72%	31.7 -5.2 -6.2	3.3 2.4 2.5	67.7 94% 96%	375.8 99% 90%	27.8 -6.3 -6.9	42.1 26.7 6.3
4	つや姫	Cタイプ	迫町	15.7	前年比・差 +1日 平年比・差 —	5月7日	70.9 102% —	417.6 86% —	31.6 -1.9 —	0.3 -0.9 —	78.1 97% —	401.9 84% —	30.3 -4.8 —	10.3 -11.9 —
5	だて正夢	—	迫町	18.6	前年比・差 +2日 平年比・差 +1日	5月16日	82.8 120% 118%	524.5 114% 104%	36.9 -2.2 -2.3	1.8 0.2 1.0	84.9 108% 107%	472.4 106% 100%	34.8 -2.9 -3.2	10.3 -10.2 -4.0
7	つきあかり	—	豊里町	19.1	前年比・差 -1日 平年比・差 —	5月3日	83.0 105% —	315.2 90% —	33.5 -4.4 —	59.7 20.7 —	84.7 97% —	313.2 94% —	31.9 -3.0 —	188.4 -15.6 —

※栽培タイプ

Cタイプ：農薬・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減：農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和2年～令和6年）の平均値。

※つや姫、つきあかりは調査2年目のため、平年比・差は未記載。

7月18日現在の生育状況は、管内の生育調査ほのひとめぼれについては、草丈、葉色が平年を下回り推移しています。ササニシキ、つや姫、つきあかりは草丈、茎数、葉色とも平年または前年を下回っています。だて正夢は草丈、茎数が平年を上回っていますが、葉色は平年を下回っています。

ササニシキは減数分裂期、つきあかりは穂ばらみ期となっています。

【直播栽培】

【水稻生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日		苗立ち本数 (本/㎡)	7月10日				7月20日			
							草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GMI)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GMI)	幼穂長 (mm)
1	ササニシキ	アヲ耕 グレンド ル体系	米山町	4月26日	前年比・差 110% 平年比・差 113%	87.2 110% 113%	55.9 100% 106%	406.8 72% 83%	32.9 -3.4 -5.7	0.8 — —	66.3 94% 94%	381.9 81% 82%	33.9 -1.3 -3.1	2.7 -2.8 -1.6

※ササニシキは調査5年目のため過去4か年の平均値を使用。

7月18日現在の生育状況は、草丈、茎数、葉色とも平年を下回っています。幼穂長は2mm以上に伸長し、幼穂形成期を過ぎています。

2 今後の管理

(1) 生育ステージの予測

アメダスの平均気温を用いた生育ステージの予測です。管内の出穂期は7月29日頃となる見込みです。

「稲作通信 第6号」に掲載した出穂期の予測日よりも早まっているため注意しましょう。

生育ステージの予測値（7月18日現在）

移植日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
出穂期	7/23～7/30	7/27～8/4	8/2～8/6	8/6～8/10	8/10～8/14

※主稈葉齢予測モデル（普及に移す技術第80号）を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉～3.5葉として予測。

平均気温は7月17日までの米山アメダスの実測値。

(2) 水管理

今年は降水量が少なく、かなり乾いているほ場が見られます。水分不足は、幼穂の発育や開花受精が妨げられて減収につながるため、入水を行いましょう。

出穂前までは間断かん水を基本とします。出穂期間中は浅水管理とし、その後は登熟後期まで根の活力を維持するため、間断かん水や飽水管理を行いましょう。

登熟期の水分不足は未熟粒の増加や千粒重の低下など、収量品質に影響します。また、早期落水は心白や腹白などの白未熟粒の発生を増加させます。落水を出穂後30日以降を目標に実施し、整粒歩合を高めましょう。

【高温時の水管理】

出穂期以降の夜温が高いと、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまい、白未熟粒の発生を助長させます。^{ほうすい}飽水管理は登熟期間が高温のとき、地温の上昇抑制に効果的で白未熟粒や胴割粒の発生を抑制できます。

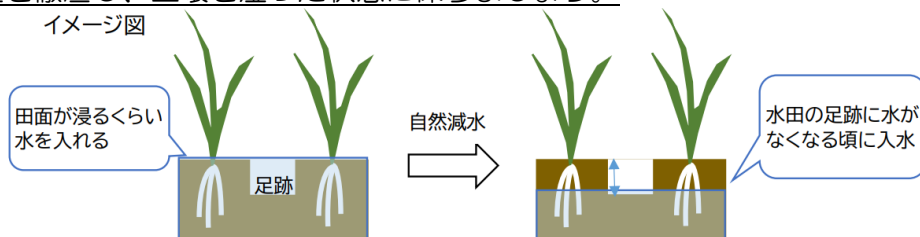
☆^{ほうすい}飽水管理の方法

- ①水尻を閉める。畦畔からの漏水がないか確認する。
- ②田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。
- ③水を止めたら、水尻は閉めたまま、自然減水させる。
- ④水田の足跡に水がなくなる頃、または番水のタイミングで次の水を入れる。
（目安は3～5日おき）

※出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。

飽水管理を徹底し、土壌を湿った状態に保ちましょう。

イメージ図



(3) 追 肥

本年の施肥窒素の減少は平年、前年よりも早くなっています。基肥一発肥料を施肥していても急激に葉色が淡くなってきた場合は、玄米品質を低下させないため減数分裂期追肥を行いましょう。

追肥時期別の施肥量

品種	窒素成分量 (kg/10a)	
	幼穂形成期（出穂25～20日前） ＜幼穂長：1～2mm＞	減数分裂期（出穂15～10日前） ＜幼穂長：30～120mm＞
ひとめぼれ、金のいぶき	1.0	1.0
ササニシキ	—	1.0～1.5
つや姫	2.0	—
だて正夢	—	2.0
つきあかり	1.0～2.0	1.0～2.0

※金のいぶきの場合、穂揃期追肥（窒素成分 1kg/10a）により、登熟後半まで葉色が維持され登熟歩合が向上し収量の増加が期待できます。

(4) 病虫害防除

【発生予報第3号】 令和7年7月18日 宮城県病虫害防除所 発表

- | | | |
|-------------|------------|----------|
| ・いもち病（葉いもち） | 発生時期「平年並」 | 発生量「平年並」 |
| ・いもち病（穂いもち） | 発生時期「やや早い」 | 発生量「平年並」 |
| ・紋枯病 | 発生時期「平年並」 | |
| ・稲こうじ病 | 発生量「平年並」 | |
| ・斑点米カメムシ類 | 発生時期「やや早い」 | 発生量「多」 |

いもち病対策

いもち病の予防剤（箱施用剤、水面施用剤）の効果が低下してくる時期です。現在まで BLASTAM による感染好適条件は6月24日のみの出現ですが、葉色の濃いほ場は上位葉の葉いもちの発生に注意しましょう。また、上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源となります。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください（環境保全米Cタイプで発生がみられた場合はJAにご相談ください）。穂いもちは、出穂直後が最も感染しやすいので、適期を逃さないように防除を行いましょう。

紋枯病対策

昨年発生したほ場では、本年も発生することが懸念されます。また、高温多湿が発生に好適のため、注意しましょう。防除時期は出穂直前の穂ばらみ期～出穂期（7月下旬～8月上旬頃）です。いもち病との同時防除が可能な薬剤での対応も可能です。

斑点米カメムシ類の防除

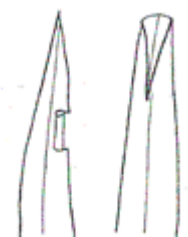
薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回が基本です。

直播栽培の出穂期は移植栽培より通常7～10日遅くなりますので、防除時期を逃さないよう注意しましょう。

イネツトムシ（イチモンジセセリ）

イネツトムシの葉の食害による減収被害は大きく、防除の対象になるのは8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。防除適期は8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。株当たり0.5個以上のツトが見られる場合は防除を行いましょう。

防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。特に、葉色の濃い稲や生育ステージの遅い稲（直播栽培を含む）を好んで産卵する傾向があるため、該当するほ場は注意してください。



若齢幼虫の形成するツト

農薬危害防止運動実施中（令和7年6月1日から8月31日まで）

農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため
農薬は適正に使用しましょう。